

「仙台、レンヌに感謝」 ～被災地支援への感謝及び姉妹都市交流 45 周年記念イベントの実施～

パリ事務所

仙台市では、この夏、第 3 回日仏会議に参加をするとともに、姉妹都市協定締結 45 周年を迎えるレンヌ市を訪問し、東日本大震災時に同市からいただいた支援に対する感謝を込めて交流事業が実施されました。パリ事務所もこの事業に参加させていただき、交流の積み重ねの大切さを改めて実感したところです。

仙台市交流政策課から、事業の様子などの報告をいただきましたので、下記のとおり、ご紹介させていただきます。

○東日本大震災におけるレンヌ市の支援

2011 年（平成 23 年）3 月に発生した東日本大震災に際して、レンヌ市はいち早くブルターニュ地方の自治体に対して支援を呼びかけ、その結果、周辺自治体分も合わせた寄付金がレンヌ市から仙台市へ送られました。行政以外にも、地元の交流団体「レンヌ仙台姉妹都市協会」をはじめとする団体、学校、企業などが、チャリティー活動を展開しています。発災直後より、各所で募金活動やチャリティコンサートが行われるとともに、7 月にはレンヌにおいて初となる仙台ゆかりの七夕まつり、11 月には被災状況を伝える写真展が開催され、震災から一年が経過した 2012 年（平成 24 年）3 月 11 日にも、被災地の現状を伝える講演会がありました。現在にいたるまで、同市をはじめ、様々な団体・学校・企業から継続的にご支援をいただいております。現在仙台市へ送金された寄付金の合計は 4,800 万円にも上ります。

<レンヌ市の概要>

レンヌ市は、ブルターニュ州の州都であり、政治・経済・文化の中心地で、中世以来の伝統的な建築と近代的な建築とが調和した、人口約 21 万人の都市。多くの高等教育機関や研究機関があり、ブルターニュの学術研究の中心的役割を果たしている。農林漁業の中心地ということから、畜産、酪農等が盛んであり、バイオ・テクノロジーを利用した食品加工業も進んでいる。また、通信光学関係の研究も盛んで産学官共同のプロジェクトであるレンヌ・アタラント¹を中心に日本企業も進出している。共に古い歴史を持つ都市であることなどから理解を深め、1967 年（昭和 42 年）に仙台市と姉妹都市協定を締結した。



レンヌ市の位置図

¹ 1984 年にレンヌ大都市共同体により創立された、レンヌ及びサン＝マロ都市圏にて形成されているテクノポリス。

○日仏交流優良賞を受賞

8 月 28 日（火）～30 日（木）にかけ、藤本副市長が、シャルトル市（フランス）において開催された第 3 回日仏自治体交流会議（以下、日仏会議という。）に参加しました。日仏会議は「グローバル化への対応に向けて、自治体は如何に備えるべきか」を全体テーマとし、日仏合わせて 42 もの自治体が集結し、双方にとって重要な課題を議論し、またネットワークを構築する素晴らしい機会となりました。

藤本副市長は、全体会にて震災からの復興と再生可能エネルギーの構築についての発表を行ったほか、分科会でも震災に関する発表を行い、仙台の復興状況と今後の展望を日仏自治体へ向けて発信しました。また、閉会式においては、レンヌ市とともに模範的な交流を深める日仏の自治体に授与される日仏交流優良賞を頂戴いたしました。長年の交流に加えて東日本大震災時の支援・対応を評価していただいたのですが、日仏の皆さまの、被災地に対する温かな励ましの気持ちを強く感じたところでもあります。



日仏交流優良賞受賞を受けての記念撮影
写真左より、ルフランソワ副市長(レンヌ市)、マセ駐日フランス大使、藤本副市長、ゴルジュ市長(シャルトル市)

○レンヌ市での交流

日仏会議終了後の 8 月 31 日（金）～9 月 2 日（日）にかけてはレンヌ市を訪問し、震災時にいただいた支援に対して、藤本副市長より御礼を申し上げるとともに、市内各所において感謝の意をこめ、仙臺すずめ踊り²の祭連（まづら）「松陵め組」の皆さんによる演舞の披露を行いました。

8 月 31 日に訪れたレンヌ日本語授業補習校では、祭連による演舞披露の後、踊り手の皆さんによる指導のもと、同校へ通う子どもたちも一緒になってすずめ踊りを踊りました。今回の演舞披露がきっかけとなり、10 月には同校の運動会でも子どもたちによるすずめ踊りが披露されました。



レンヌ市庁舎でのレセプションの様子
写真中央左より、藤本副市長、ドゥラヴォー市長(レンヌ市)

² 1603 年（慶長 8 年）仙台城落成の際に披露された踊りがはじまりとされている、仙台を代表する郷土芸能の一つ。はね踊る姿が餌をついばむすずめの姿に似ていたことなどから、すずめ踊りと名づけられた。

また同日、レンヌ市庁舎にて、レンヌ市関係者や、支援活動に協力して下さった団体、企業、学校等の皆さんにお集まりいただき、レセプションが行われました。すずめ踊りの演舞は、支援に対する感謝と復興への想いをこめた口上からはじまり、にぎやかなお囃子と軽快な踊りで人々の目や耳を楽しませました。

翌 9 月 1 日には、レンヌ市中心部にて、多くの交流団体の協力のもと「仙台、レンヌに感謝」というイベントが開催されました。イベントでは、日本文化の体験コーナーに加え、復興や姉妹都市交流に関するパネル、七夕飾りの展示、すずめ踊りの演舞の披露を行い、レンヌ市民に対し広く感謝の気持ちを伝えるとともに、仙台の現状について発信しました。イベントの冒頭、藤本副市長より、レンヌからの支援およびこれまでの交流に対する感謝と復興への決意を述べたところ、ドウラヴォー市長が、仙台に対する変わらぬ連帯の気持ちを表明してくださいました。

同イベントは、多くのレンヌ市民で賑わい、特にすずめ踊りの演舞の際には人だかりができるほどでした。また、クレアの木村理事長、クレアパリの黒瀬所長にもご来場いただき、交流事業の様子をご覧いただきました。全ての交流事業が終わった後、すずめ踊りの皆さんが作成した「絆」の横断幕にメッセージを書き込み、レンヌ市副市長へお渡ししました。この旗はレンヌ市役所内にて飾られる予定です。

レンヌ市では、震災から約 1 年半が経過した現在でも、各種のチャリティイベントが開催され、市民の皆さんは変わらぬ連帯と友好の気持ちを持ってくださいました。今後も、日仏交流優良賞を励みとし、レンヌ市との交流をより一層推進してまいります。



体験ブースの様子



すずめ踊りの様子



松陵め組の皆さんとの意見交換の様子
写真中央左より木村理事長、ルフランソワ副市長